



# 常任委員会の活動

## 総務文教常任委員会

- (1) 市立小学校11校整備計画地区説明会後の経過について
- (2) 堀越小学校耐震補強・大規模改造工事の現地調査について
- (3) 市民交流エリア検討委員会の進捗状況について

**○閉会中の継続調査事項（12月定例会まで）**

市内の児童数は少子化に歯止めがかからず年々減少、3校の統廃合後も全校115名以下の小規模校が3校あり、平成28年度には12学級未満の学校が9校となる可能性が見通されています。

教育委員会では、小規模校は個別学習の面での利点はあるものの、教員確保や学校体制の面からも問題点が多いため、児童にとって望ましい教育環境の整備を進めるためにも、教員配置の算定根拠となる一定の児童数が確保された学校整備を進めていくべきと、当初

の整備方針を踏まえ「第2次阿賀野市立小学校11校の整備計画（案）」を作成しました。

6月からこの計画について各小学校単位で説明会を行い、そこでの意見、要望等を整理検討中であり、今後も地域との話し合いを継続して共通理解を深め、今後の進め方を検討していきたいとのことでした。

委員からは、早くその姿、内容を市民に分かるように情報公開をしていただきたい。また関係地域住民の意見をよく聞いて検討していただきたいとの意見がありました。

### 市立小学校整備計画について

**平成22年8月9日に所管事務調査を行いました。**

学校は体育施設の夜間開放のみならず、平日・休日・夜間を問わず生徒の使用していない特別教室（和室、調理室、技術美術室、コンピュータ室など）は各種学級・講座等、多目的ホール（通常はフットサルコート）は式典・講演会・コンサート・研修会等の会場として活用されています。

複合化によるセキュリティの問題については、校舎の機械警備を開放部分と非開放部分の2系統に分けて管理を容易に行っていること

のこともでした。

そのほか環境に配慮した太陽光発電施設や全天候型のグラウンド（周辺への砂塵被害は特になし）がありました。

学校教育の実施のみを目標とせず、生涯学習機能も併せ持った、市民に開かれた教育施設として素晴らしい学校でした。

**そのほかの先進地研修先**

- ・ 県立会津学鳳中学校（自然換気設備により環境に配慮した快適な学習環境づくり）
- ・ ルネサンス棚倉（スポーツ、文化、健康をテーマにした体験型・ふれあいリゾート）

西会津町は町の4つの中学校を統合し建設するに当たり、学校を学校教育のみでなく町民も使える施設として複合化できないか研究し、町民利用の窓口としても機能する図書館棟の建設を計画したそうです。

図書館は1階が町図書館、2階が生徒図書室で、学生の学習の場としての利用のほか、町図書館主催の各種講習会や読み聞かせの会の実施、また学校施設使用申請の受付業務も行っていきます。

学校教育の実施のみを目標とせず、生涯学習機能も併せ持った、市民に開かれた教育施設として素晴らしい学校でした。

そのほか環境に配慮した太陽光発電施設や全天候型のグラウンド（周辺への砂塵被害は特になし）がありました。



1階 図書館内  
中心部にあるドーナツ型のテーブルは多人数での読書、学習に最適

### 町立西会津中学校

（社会教育施設（図書館等）との複合化により、学校が地域の拠点としての役割を果たすことについて）

**平成22年7月28日・29日に先進地研修（福島県内）を行いました。**

## 社会厚生常任委員会

- (1) 水原郷病院民営化後の状況について

**○閉会中の継続調査事項（12月定例会まで）**

高齢化が進む中で、当市の要介護認定の状況は、平成21年10月現在、第1号被保険者（65歳以上）1万1,964人のうち認定者が2,112人、認定率17.7%と、平成17年度と比較して約2%上昇しています。また、介護給付費は平成21年度決算で約34.1億円となっています。

介護サービスについては、ここ数年、施設系のサービス利用が伸び、居宅介護サービス利用は計画値を大きく下回っており、市内高齢者の施設介護指向が年々強くなっているものと思われま

第5期計画では、特別養護老人ホーム待機者の解消を第一義に、利用者の選択肢を広げる観点からサービスメニューの多様化、マンパワーの地元確保等、経済波及効果も勘案し、あわせて市単独財源の持ち出しも最小限に抑えることにも配慮しながら、増え続ける高齢者人口に見合った施策（施設整備等）を進めていただくよう要望します。

### 「第4期（平成21～23年度）介護保険計画」の進捗状況について

**平成22年8月5日に所管事務調査を行いました。**

水見市民病院は、平成20年4月に公設民営化（指定管理者制度を導入）した、診療科20科目を備える総合病院です。全国的な医師不足現象に加え、病院建物の老朽化や一般会計からの赤字補てんの増加が顕著となったことから、平成19年4月に水見市民病院経営改革委員会を設置。その答申を受け、同年7月に公設民営化方針を決定、9月に指定管理者を公募、11月には学校法人金沢医科大学を指定管理者候補に決定し、平成20年4月に金沢医科大学水見市民病院として開院しました。

開院時は医師28名体制でしたが、平成22年7月には37名まで増員しており、これまでの24時間365日の救急医療やへき地巡回診療などの医療機能は維持しながら、新たに土曜日診療を導入するなど診療機能体制も充実し、市民の医療ニーズに応えています。

同病院の公設民営化移行へのプロセスの根底には、市長の明確な決意（逃げない・ぶれ

ない・ウソつかない）に基づく判断力・決断力が強く感じられました。方針決定から民営化までわずか7ヶ月で達成されており、担当者からは「阿賀野市は時間のかけすぎ」との指摘も受けました。指定管理者の提案内容や基本協定の内容は阿賀野市と雲泥の差があり、市の所管課でも何度か水見市を訪れている中、その成果がまったく生かされていない現状を思うと残念と言わざるを得ません。

研修では、以上のように公設民営化に至った経緯や基本協定の内容等について説明を受け、その後院内も見学しました。

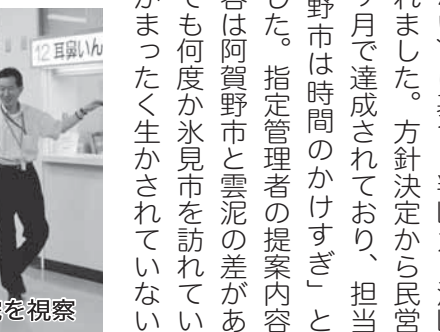
公設民営化方針を決定、9月に指定管理者を公募、11月には学校法人金沢医科大学を指定管理者候補に決定し、平成20年4月に金沢医科大学水見市民病院として開院しました。

開院時は医師28名体制でしたが、平成22年7月には37名まで増員しており、これまでの24時間365日の救急医療やへき地巡回診療などの医療機能は維持しながら、新たに土曜日診療を導入するなど診療機能体制も充実し、市民の医療ニーズに応えています。

同病院の公設民営化移行へのプロセスの根底には、市長の明確な決意（逃げない・ぶれ

ない・ウソつかない）に基づく判断力・決断力が強く感じられました。方針決定から民営化までわずか7ヶ月で達成されており、担当者からは「阿賀野市は時間のかけすぎ」との指摘も受けました。指定管理者の提案内容や基本協定の内容は阿賀野市と雲泥の差があり、市の所管課でも何度か水見市を訪れている中、その成果がまったく生かされていない現状を思うと残念と言わざるを得ません。

研修では、以上のように公設民営化に至った経緯や基本協定の内容等について説明を受け、その後院内も見学しました。



公設民営化した水見市民病院を視察